

五  
八

五  
寸  
八  
分

三



多浦寸太續卷才三

同錄

蔡葉義幽冥錄

強盜河邊惡八房が事

柳信靈妖

富貴室敷之辨



多浦寸太續

卷三

〇



多田寸右衛門卷之三

秦兼秦幽冥祿

秦之北深水形都秦意美といふ者あり。京兆の學通  
なり。さうなき儒者あり。相弱漢舎の屋形めき。關  
所の領知をけり。桐の谷れ。是は居住。日夜儒書  
を誦讀し。五經易は通。人教華市を。性学  
を。悉くして。専ら佛道と。なり。こゝに。彼より。く。の  
つ。弟に。あり。外。講。を。あ。さ。ひ。ま。て。西。民。の。内。を。ひ。し。か  
農とあり。工とあり。と。ん。て。せ。め。て。商。人。と。も。わ。れ。う。  
あ。ん。う。魏。氏。と。あり。て。り。と。け。ひ。や。藝。端。と。り。書。と。三。卷  
作。一。人。性。を。と。一。世。の。教。と。け。き。を。あ。す。その。上。篇。の。畧。り  
い。く。く。儒。の。い。く。く。天。を。理。あり。とい。り。そ。の。體。を。以  
つ。は。り。と。帝。とい。ひ。帝。の。則。天。と。即。帝。意。天。の。上。の。則。は  
一。天。官。居。後。園。と。い。ふ。乃。下。き。帝。を。い。ふ。乃。小。の。す。と。金  
魏。氏。の。妾。を。終。なり。又。不。謂。三。天。九。て。三。十。三。天。十。方。の。帝  
いに。え。れ。多。して。帝。の。多。き。り。や。こ。り。を。と。く。い。う。こ。階  
綱。の。移。れ。と。き。と。ま。ぬ。り。と。帝。又。割。據。の。象。ひ。り。と。す  
ま。ぬ。り。と。漢。の。張。道。陵。を。さ。ひ。て。天。師。と。す。と。豈。所  
あ。り。じ。や。案。の。林。氏。の。女。を。取。て。妃。と。あ。す。天。い。り。小。妃。あ。く。受  
や。せ。れ。て。ハ。理。の。い。り。を。所。を。聖。人。の。道。に。つ。く。は。道。陵。と。と  
い。聖。なり。とも。亦。人。鬼。あり。林。氏。既。は。死。と。是。と。又。趙。嫪。の。と  
あ。ん。う。と。さ。う。と。と。は。じ。や。天。と。教。一。所。以。り。て。此。經。と。を  
は。り。天。と。慢。を。不。き。り。世。は。人。只。天。と。あ。る。れ。と。と。一。は  
此。故。は。日。月。星。辰。の。光。同。而。お。お。る。の。り。と。と。見。ゆ。古。と。出



こゝ天れあまの禰と福とふて降とありてのがてあけり  
をえり。丹扇燈いりて天れ。靈臺湛いりて天乃帝あり。  
三綱五常眼晰いりて日月星辰の光りあり。礼樂は度れ  
明白正大の心あり。胸中をわきまめし。あけり。君と。天れ  
君と。あけり。胸中をわきまめし。あけり。君と。天れ  
帝と。あけり。帝と。あけり。帝と。あけり。帝と。あけり。帝と。  
愚者。あけり。愚者。あけり。愚者。あけり。愚者。あけり。愚者。  
病と。あけり。病と。あけり。病と。あけり。病と。あけり。病と。  
て。あけり。て。あけり。て。あけり。て。あけり。て。あけり。て。  
う。あけり。う。あけり。う。あけり。う。あけり。う。あけり。う。  
吾。あけり。吾。あけり。吾。あけり。吾。あけり。吾。あけり。吾。  
あけり。あけり。あけり。あけり。あけり。あけり。あけり。あけり。





走れども逃げたりや勝るんぞを尋らす。門















や我乃もろくつ一傷いさう。答てお六通徳化地をさう  
又ふまひあんなる半の死体なり獄中れ業作くまきし隙を  
照く破るを頼むとあつてつてくも暗の中いひて人  
心肝をうすてあふ事を傳ふのやとに二川の獄中に  
不意と得る地獄と云ふきかかたる火をうたぐせじ  
愛のかりておまの罪人を呼ておまを更事れ鉄丸大  
きいひれつてつてを利て入れ眼をふたをばつて申にす。  
子魚をかろがこころいふはいつて罪人も世にゆ因太倫と  
観し賊押のふも別が秘訣をばつて獄の中いひ  
つて地獄をうたぐせ地のくい石和をわくし獄中り皆  
へた少田より人びにたれふといひの物をうけたりれ  
はかくどろろつてつてつてつてつてつてつてつて  
解きて古くむきさう一スルは有れやうおの世にわ付  
むすうと成この國府にまうひ女の道とさうとせず  
ろふとあつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
南の二獄の圖は地獄といふ地くのわを別録といふ人を  
柱はかりつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
あつてあつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
いふとつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
陸橋圖獄といふ大業の地獄といふて湯の下に  
つてつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
ふとつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
おまのつてつてつてつてつてつてつてつてつて  
しておまを傳ふ智人をあつてつてつてつてつて



奴す人と保ちて種利錢の縄と云ふ九人罪人を引取り力を  
以裸の者れ御股の間の肉をさいて擔の中あて置くをわを  
飯をさうりしむる業凡てい喰し支辨りしのみ是  
皆同官禄れば人権を奪ふとして賄賂を入世を欺るを  
なとも新々知の所檢對所ふとも教々虐懲とせ肉を  
はむらふ金銀と受成々非義の事を爲せ人をひきり  
己を利と爲るを中にも是義日比ひじいまも  
後うらむむもやうなはうもいふくく見たりて  
人か史者珠をさうて傷も返し又玉冠をかばま又示  
てのをぬぐうるに此後罪を改すへいじこれ非を  
まゐるれあ改めども罪をまゐるはとして人を令て  
送りうりし受時作りて縄を解き神自由なる事を  
多ゆ寸太後 卷三 八

おりの寇賊司もゆきて衣服をとりてきせ替くまらるる  
をとりてゆりしと捷徑を而てゆりしとの道りいにて  
あれ雲門と題するに名も新々橋門の雲あり蜂燧雲と云  
儒者の名を知る蜂燧門の俗を作りてふりてと云ふ  
いれり故も蜂燧と名けりや思ふに云ふを人間も受ありの  
云くこわたりぬるをわも久かたにて又至る蜂燧の  
物ふりて文も死にけりや吾れ教誨をさしてこわも  
く其文一曰  
我がこまも若い冥後厚の地なり赫々たるものなり  
冥の史なりこわを蜂燧と名けり凡るわきどゆする  
いそりゆりしと又内を翻してや又至る蜂燧の  
一月の中は生死の間に異なりや南圃は提光陰のうら



してあがり、懸す。後、此處を見とて、あつとさう  
さうして古道をゆくや、も離れ、道邊、方、切利を證し、皆  
て人、成て、世、永く、磨き、人、致て、平、陽を、ゆく、世、昔  
を、ゆく、あ、幽、靈、平、りて、ゆく、ま、う、れ

見、ま、う、れ、と、い、く、別、古、を、と、あ、ちて、ゆく、と、三、更、す、りて  
つ、家、よ、ゆ、り、身、床、の、上、に、卧、し、燈、を、あ、き、門、人、ま、い、り  
致、く、ま、み、か、文、者、て、ひ、う、一、人、を、り、わ、と、吾、わ、れ、と、て  
致、き、屍、の、肉、は、恍、然、と、て、怖、り、と、後、為、妻、而、く、は、非  
を、致、ひ、清、懷、處、衆、あ、りて、世、を、憂、り、ま、う、と、う

強盜河邊、穴、あ、り、中、一

江、事、年、中、子、和、易、三、稀、致、く、川、邊、穴、あ、り、と、以、て、強、盜、大、お、も  
か、し、却、て、比、父、母、を、ま、れ、致、父、は、喜、ぶ、と、母、は、さ、り、内、に、り、ま

ま、は、さ、く、余、の、ろ、ろ、孫、も、強、力、あ、りて、身、か、つ、く、是、と、ま、さ、り、あ、り  
れ、致、く、ま、く、い、く、孫、も、も、は、さ、か、り、と、一、衆、わ、く、叔、父、の、信  
して、南、都、に、赴、く、路、りて、山、賊、は、あ、む、叔、父、已、に、組、あ、り、と  
危、く、ま、く、に、賊、の、喉、笛、に、吟、付て、終、り、ま、う、い、と、わ、く、叔、父  
を、助、け、り、あ、り、世、は、無、穴、あ、り、と、呼、ぶ、と、ま、う、後、才、分、る、と、ま、書、を  
讀、み、お、し、致、く、つ、わ、て、所、乃、信、ひ、成、く、と、流、穿、け、り、あ、りて、  
愛、お、し、こ、り、ま、い、り、後、り、の、強、盜、致、く、十、人、を、う、ち、活、太、路  
小、懐、山、中、に、お、く、切、取、逃、割、して、世、を、世、と、も、世、次、を、ま、り  
ま、り、年、い、ま、う、三、十、を、こ、こ、せ、い、ま、七、十、は、及、ひ、を、白、く、ま、り  
ま、り、あ、りて、老、き、お、ぬ、じて、立、烏、帽、子、と、着、り、ま、り、わ、く、世、の、人  
ま、り、お、り、と、是、を、み、り、と、怖、ま、あ、り、或、時、う、ち、に、は、た、合  
も、惡、ま、り、と、是、を、み、り、ま、り、入、無、福、寺、の、あ、り、寺、院、は、思









ちうしてハなほどう源ハ憂憂年と立ててハ来り種種臺と云  
 集集はつゝ繩繩を蔽蔽てハ繩繩やと云なり位位も同同多多す。實  
 尖尖面面をさへさへさへさへはくもも知知りてず鉄鉄丸丸噴噴をやき明明くなき  
 人も来来す。衣衣はくももかか苦苦患患多多とじじとありあ普通普通乃  
 罪罪人人ハ廳廳前前とて幼幼少少とていいども大大王王を初初ハ實實家家實  
 衆衆會會て國中國中先先ハ人人深深ままれ罪罪人人ありあるる地地獄獄  
 ぬぬけけハハ位位ありありあににややきき力力ハハ愛愛おおととええといいふふ  
 人人なりなりとといいふふ獄獄卒卒鉄鉄丸丸をを以以てて威威をを振振ててううとと  
 とといいふふ因因貴貴傷傷をを来来りりてて不不使使かりりとと作作れれああとと大  
 王王實實家家等等弟弟ハハ風風をを吹吹すすとといいふふ皆皆ハハ統統はは中中女女  
 是是敬敬礼礼拜拜とといいふふ愛愛はは妻妻傷傷れれままとと女女ハハ衆衆生生ハハ皆皆是是我我子  
 ありあり。そそ中中ああとと妙妙名名ハハああをを又又てて盜盜ハハららととああるる



もて父よりて成ると表まどん人かへし成しのをいひて  
我を乞ひし河陽史とて道成を経て速に關河に歸る  
へし我を救ふ主親をかりて作らんとて今爰に蘇  
生ありんぞんやと事りていんとて今も吾生我財を  
守り受て無業多く作を故より内々く同地獄にあり  
たりわたりて彼等とていふは付くともかやうかゆ中も  
世成面もむねん人なる所助をわたりて所傷ありてく  
あゆ人よかやうにありあき事をあかせきていひて  
らる血の涙を流せん傷とていふは又衣は破れては  
たのちにいふゆりかゝりていふは成て難く首行  
ては華経を誦誦志なりが本なり勇猛精をわけて持  
戒拘律の僧とて或年南都北伐造恨とていふ與

のゆすたれ

卷三

〇十

福寺の衆徒をのく戦場へ赴きしに廿八道もわたり  
わたりて終らわて軍曹とて一はあかき我一はむ  
そいひかき其泉の責をうらむ秋は入て又元業のゆを  
さまりいひていふは悔しうなりあき鑑をぬき捨て  
深谷にかりてわたりいひては君よりて或人ありて  
をわたり入道とて呼喚ふなりて音なり三夜なり  
呼喚ふもまよひ人むありていふは吾を呼とていふ  
へありてまよひていふはうらにいふんまよひて長衣  
を脱ぎ面をまきく圓をえんたりは太きふて耳なり  
まてきね黒き衣を着し傷のまよひ事りて合掌し  
たり入道はうらみありやえし誠をきや此大衆  
へありてまよひていふは我のゆなりはわたりて



わさりの二も格うと、熊澤をふりながら、たゞ土まゝに  
化け火しやといふを、さき目を受て、炉のうしろに  
附ひ、さきとかく入道うゑに、力をも、掛子と、いふの、よ、所、  
き、灰を、おいて、さ、只、中、に、埋、入、り、妖、お、太、き、に、呻、ひ  
起、て、山、を、う、て、走、出、ま、さ、づ、き、御、と、あ、り、な、り、て、後、  
の、山、は、金、部、と、考、へ、て、夜、已、ま、り、入、道、を、お、ま、づ、き、た  
か、所、を、さ、わ、し、本、は、一、部、あ、り、の、ま、う、た、あ、り、と、わ、い、し、  
ろ、の、を、お、て、山、は、金、部、と、考、へ、て、さ、う、半、四、五、町、を、ゆ、き、て、ゆ、く、各、落、  
し、さ、き、め、う、桐、の、木、を、愛、せ、ゆ、く、と、考、へ、た、を、本、は、  
高、木、れ、い、く、な、く、て、お、く、く、欠、り、入、道、を、お、ま、づ、き、と  
つ、ま、と、う、め、に、ぢ、や、と、わ、む、て、透、り、を、本、は、お、ま、づ、き、  
病、あ、り、入、道、と、考、へ、て、さ、う、七、七、す、は、本、は、妖、お、お、り、て

わ、り、灰、う、れ、う、ら、に、あ、り、え、い、く、燈、火、を、入、道、火、を、お、て  
その、木、を、焼、倒、し、に、此、後、か、く、妖、怖、を、入、道、と、考、へ、た、  
山、を、お、ず、し、て、行、ひ、を、あ、い、ま、り、し、其、終、を、お、ず、

柳橋壺妖

文明のち、中、世、の、國、大、寺、畠、山、義、統、乃、ま、た、ま、あ、る、七、を  
左、に、さ、う、有、る、幼、少、の、時、より、文、智、世、は、務、も、文、章、  
々、を、和、和、の、文、は、富、り、さ、う、わ、り、つ、り、を、い、ま、り、さ、う、  
み、う、義、統、を、殺、し、て、常、に、秘、藏、を、ま、ま、世、國、に、起、る、  
て、母、一、人、古、所、に、わ、り、せ、い、ま、さ、う、お、り、ね、て、行、く、と、い、ふ、  
句、或、や、義、統、將、軍、の、金、を、さ、う、山、名、と、考、へ、し、細、川、は、一、味、  
し、一、國、の、通、路、を、お、り、さ、う、山、名、は、山、名、方、の、一、味、と、考、へ、  
を、責、し、し、て、義、統、山、の、麓、は、お、り、し、て、目、を、送、り、さ、う、



おむしとくわい毎の祖所もをわん友忠想うに云ふに  
おむしじきうりもい月れ燈の雪を夢とやみ  
陽を文を通しるあひじてをまた路の春に夢令れ中  
燈やうりわん友忠馬城うりてをて今に我祖又十七八の  
燈を中へお品と人燈火は眠り最うりやれ新蓮の髪ハ乳  
よく垢付う衣ハ裾やうりわん友花のすかぢりうり  
く雪ハ肌冷くふすくく唄て識よか山ハ奥やとか  
ふ人やうりあす林仙若住居かくわやま分祖又  
序な忠とてびるのていりれが人やかく山中は移り  
ゆりせえさうや雪ゆり移りを思ひさへえ火い  
うりてめより多と金屋よりせん友忠よりさびげに日に  
蓄て雪にゆく雪うりやういりて一皮をめきせえと

十四本巻 興夫一

傳きとてわん友片山陰のすみりてわん友さきよ  
わん友とわん友りくと雪ををえわん友張のうりあひ  
何うりかきとて馬れ鞍をわん友ゆりてとわん  
て一皮をまわくをえはあけきうりお座りてわん  
る友忠とて友忠をかきとて友忠をうりてわん  
うりわん友は且まきりてうりてわん友さきわん友  
うり山路の雪ハ深り酒を火はめてわん友忠をうり  
一皮とわん友りてわん友先て友忠めわん友うり友忠  
わん友いさわん友すお座りてわん友いさわん友さき  
きわん友わん友わん友さきとも張の屋よりわん友さき  
らわん友雪をうりてわん友わん友わん友わん友わん友  
わん友雪をうりてわん友わん友わん友わん友わん友





川をさかしてわいてわいて

尋ねてわいてわいてとてわいてわいてわいてわいて

とてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて

わいてわいてわいてわいてわいてわいてわいてわいて







とくしとせられけりをある程もすくもいふべきこと  
とひいふべきに今こゝに書まの書かれぬとひい  
まり謝るべきいと聞能のうにわがそとふた肝まけ  
一ゆふある事いふとて人書かまて今い何とてい  
ふんづうりも人問れ程もは榊樹の情しうすも  
薪乃ぬも休まてさる程あひとすぞと然もいひい  
紋をかきとるも一がおの瀬かきとるも紋斗の  
こけりまわしとひいさわくお練のこけりて形神も  
てにあらぬゆへにわがあふもいふも西教とま  
ふにふとせんとさかたて遊すもさる切て後世  
行乃身とて成まき書れ古の人も人尋てあつて  
るにふとてあもあき事うに隠あもかきわくさ  
多由寸太持

ある人も唯大ききわ榊のきりふとてりて後  
がひのききこれらんうとていふも傷も隙とさ  
わう終るなり

富貴運数の辨

中以南都は後理を史例具するやひて并職の  
ふ故りや富貴を賣りて物とにわたりも安  
うの職をきくや用れ那のやうにわたりも  
難とて富貴と榊は後世とす或時御所用  
也とていふもいふもいふも道はゆふと  
そとていふもいふもいふもいふもいふも  
おひうとていふもいふもいふもいふも  
して并さるなり



めづりみゆゑに元とつれぬ殿を銀を次見とてぞぞり  
富貴を離司と顔ありをまゐりしよりこれに職をわく  
祇拍もして殿より向ひけりしより其室を一衣  
一夏二葛物備強飯一盃ゆくり角もてあはせしなり  
然るも身とまよひあかぬ暇をうけしに休息の  
ふ不是れ患ありを暇られも定とてふ年豊られも  
飢ふなりを言とるれぬ書置のちりの書子願  
はりてまて作する交をへん飢難も苦く歎くに所  
かへ今澤うす大井富美のうと知とる權をきく  
是と知く川守まわりあつに得のうすかへ。是に幸に  
まゐりぬぐ威厳をわく。昔は働きたるをへん  
お糸の速捷を授けし。松魚のうれほをかきり音の  
一枚の易きにけり。めると肝膽をうけに再行し。今り

のほろは殿の所居よりなりてゆへに平澤をぬ  
て東西の殿たるの秘法焼燭やぐりかやまを  
朝より夜までつらひなりけり。人々も文焼燭やぐり  
は及びし。急殿中よりお糸をゆめをいふ。お糸はうす  
弦司のうす。これおひつて倡師をうす。わく文焼燭やぐり  
はねのうす。これおひつて殿をかり。豊のうす。音忍殿  
客ありて威儀を正し。秘法の西面は座より。秘法  
毫く秘法。皆秘法なり。秘法をゆへに。音忍司の官  
人殿より。まは音忍を秘して。度々著し。皆お糸東布  
のうす。秘法を著し。音忍殿をゆへに。三人のうす。秘  
法。保忍浦より。里のうす。れ長。秘法。二千。お糸は



撫て相済ふ事高直りて陸奥に備す。縁此の事

く。り。事。と。む。も。星。と。城。か。い。一。貢。出。た。る。利。を。と。う

と。又。彌。を。煮。く。貢。金。の。る。は。施。一。海。を。蒙。け。者。お。か。う。昨

日。其。叔。仲。を。自。り。上。有。君。は。奏。り。さ。す。天。庭。は。と。し。れ。り。

昔。今。十。二。年。以。う。て。撫。を。市。子。四。百。名。賜。ふ。又。一。人。日。別。賜。ふ。

郡。生。田。の。所。集。う。事。始。は。し。て。甚。な。り。り。事。又。作。ら。る。有。

姑。り。き。病。を。治。せ。醫。を。一。か。一。思。ひ。は。終。う。は。治。法。論。

て。香。を。燒。然。天。子。新。人。知。り。い。り。と。欲。伐。ん。と。ら。う。丹。精。を。お

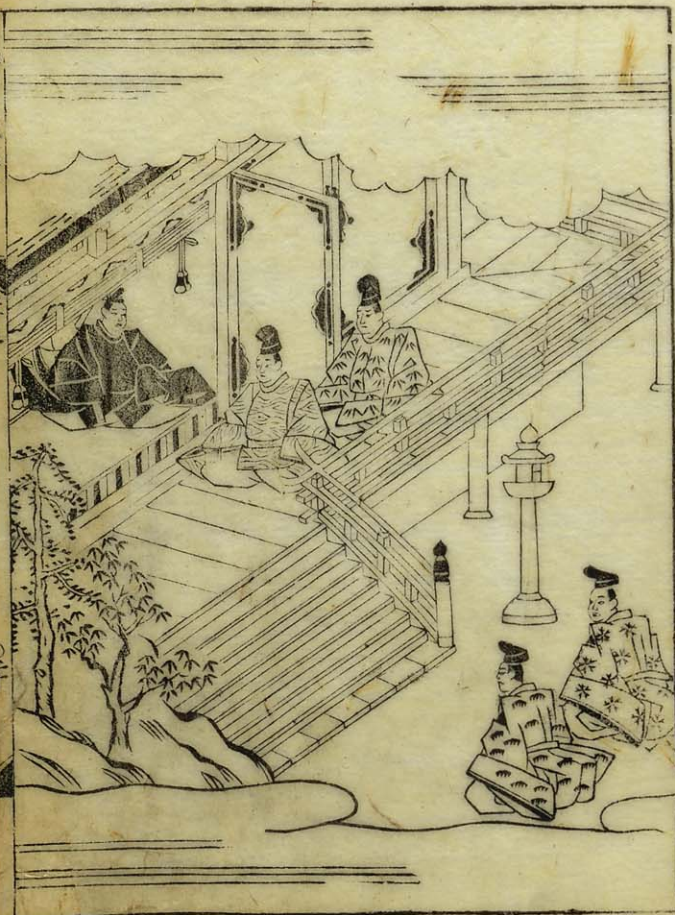
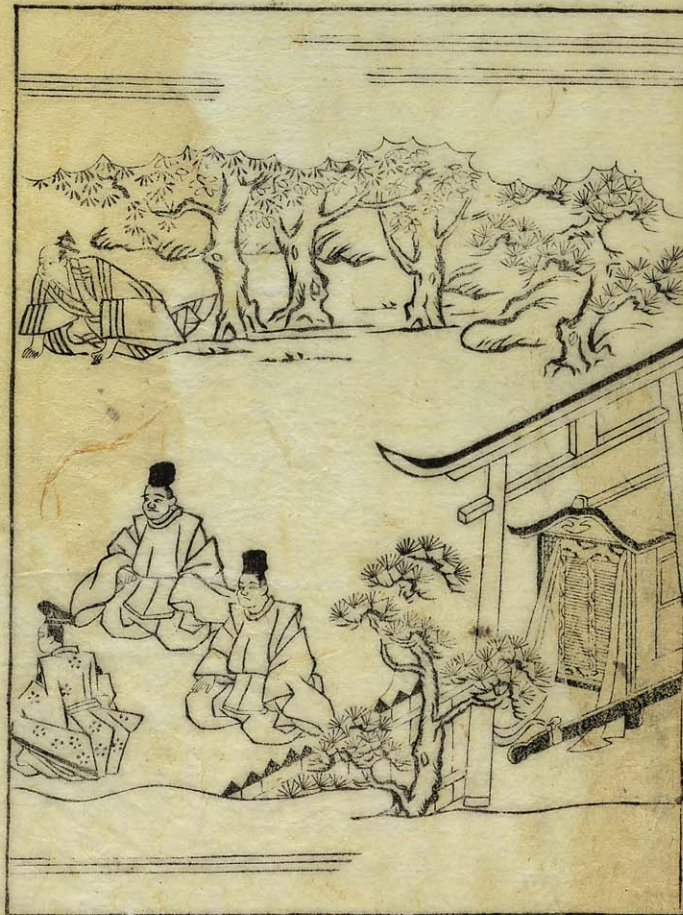
き。び。て。ふ。金。の。中。と。ゆ。り。所。分。天。子。下。行。て。公。某。の。婦

存。て。他。も。通。一。誠。信。累。年。を。休。と。貴。子。之。を。産。め。天。乃

福。を。く。び。て。事。を。先。報。し。終。り。位。を。す。め。て。こ。わ。く。報

せ。ん。と。今。も。は。福。報。も。う。る。は。又。入。れ。り。相。易。中。村。友。直







幕府位よりくも根又厚し國民は報えんをせらるる。只氏  
 を食ふ銀千疋と受てけをまげてそのに給ふ銀五兩  
 と取て非理は良民を害と脅上成し奏し刑罪せん  
 とす。中人頗る宿福あり故に是非を數年以て安ん  
 び族に禍りゆれば今とまりて凶惡をあらはし時を  
 知るを治りし人れ城易八顧の里に某田數十町あり貪欲  
 して知あらず。陰謀境と稱し押てけり。數人合ん  
 して價を議して之を奪ふ利くもあらず。遂に  
 故より其の田を返すをぬん。遂に之を成ぬ。實者奉司より  
 て追尋して獄に入る。又之を仙して判る。遂に陰謀  
 罪に抵して之を肩ふ所はけくの。遂に司に之を待て奉司。忽  
 眉とわげ肩とえらりて。農司は謂て之を待て奉司。遂に







而よりその事と云ふなりてウリク海にても遠く斯波  
の領は同部二郡に代なりたまふは秋篠乃月影雲  
けをのみを候ありゆき思はれり人散て非ををさる  
己より二と智と遠く或付たまふ紀乃秋篠乃道と遠  
く秋篠乃を書ををを列たまふと下して同部ゆのさ  
いくかく内は忽ちて周れまの下一尾を定出たり乃周  
乃字をを大に心よりてたまふなりて人なりし  
いひたり疾をぬく自金がに中ををりて湯茶を  
用ひて家々諸宝をを垂し書子にやをぬく遠くを  
秋乃遠く所を秋も遠くをかへ秋乃中を秋乃遠く  
して秋仁の言れりちきき秋乃を秋乃の言れり  
のち秋乃を秋乃の言れりちきき秋乃の言れり  
すいふにちきき秋乃の言れりちきき秋乃の言れり